

1 今年度の学校経営計画策定にあたっての考え方

これまでの学校経営計画を策定するにあたり以下の諸点を策定に当たっての考え方として、計画の改善を図った。

- 本校を志す生徒の進学希望をより高いレベルのものにするとともに、その維持を図るために、「高い志」の育成をまずは企図する。その結果として進学指導重点校に比肩する結果を出しうるものとし、これまでの中期的目標を副次的な目標とした。
- 学力上位層の伸長はもとより、下位層が全体の学力分布の押し下げに影響を及ぼすことを防ぐこと、学習内容で取りこぼしのないフォローアップ指導を行うことを加えた。
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン学習の導入や、令和4年度入学生からCYODが導入されることに伴い、教育活動の変化に即応できる体制づくりについて加えた。

2 今年度の具体的取組状況について

学校経営計画「3 今年度の取組目標と方策」における「(2) 方策」に示された具体的方策の取組状況及び課題は以下のとおり。

方 策	取組状況及び課題
<p>① 進路指導</p> <p>ア 定点観測（外部模試データ分析・検討会）を1年次生、2年次生ごとに3回行い、学力分析、指導内容・方法の改善、弱点科目克服対策等を行う。（進路指導部、学年担任団、教科担任）</p> <p>イ 3年次生「目線あわせ」等(計4回)を通して個別生徒の外部模試データ等と志望校についての分析・検討を進め、受験克服対策への共通理解を深めるとともに高い志望を維持する指導を推進する。</p> <p>ウ 放課後、長期休業日等に補習・講習を積極的に実施し、丁寧な指導により生徒の学力を伸長させる。</p> <p>エ 国公立2次試験対策を充実させる。特に大学入学共通テスト後の講習、個別指導を組織的効果的に行う。</p> <p>オ 英語体験学習（原則1年次）を希望する生徒を対象として実施する。</p> <p>カ 学年集会を計画的効果的に実施する。各種面談や学習時間調査、進路説明会等も活用しながら、学校行事から学習への切り替え等、進路実現へ努力・邁進する学年集団を維持するよう指導する。</p> <p>キ 自習室（学年毎2・3年次生向けに設置、放課後・長期休業日中等に開放）や定期考査前のHR教室、職員</p>	<p>ア 模試分析会については、3回実施。</p> <p style="padding-left: 20px;">1、2年次においても上位層の生徒について「目線合わせ」の形での実施を始めた。更なる拡大を図る。</p> <p>イ 「目線合わせ」については、4回実施。実施方法を2回目以降改善し、生徒の個別データをカンファレンス方式にすることで、より多角的に個々の生徒を分析することとした。</p> <p>ウ 自学自習との関連を図りながら、実施。夏期講習については、冬季は志望校別のパッケージでの開講をしたが、より早期（夏季）からの開始が課題である。</p> <p>エ 教科主導での実施を行った。今後より組織化を図るため進路部主導に切り替えていく必要がある。</p> <p>オ コロナ禍により実施できなかった。</p> <p>カ 全ての学年で学年集会において模試の返却・解説をおこなうなど、頻回の実施は定着している。</p> <p>キ 自習室の開室を、1年次にも拡大し、秋以降全ての学年が20時までの開室を行えた。チューターに加え自</p>

<p>室前の質問コーナーでの居残り勉強等から、仲間と切磋琢磨する共同自学自習を奨励する。</p> <p>ク 教員の外部研修会活用、先進校視察、英語科海外派遣研修等を行い進路・学習指導改善に努める。</p> <p>ケ キャリア教育を推進する。年次毎に「自己理解と将来」「自己啓発と将来」「自己実現と将来、政治的教養」をテーマとする。高大連携、キャリアガイダンス等の実施や海外交流事業に取り組む。</p> <p>コ 進路指導部と図書部の連携による「新書を読もう！」などで読書活動を推進し、知性と教養を培い読解力等の素地を高める。</p> <p>② 学習指導</p> <p>ア 授業改革を推進して生徒による主体的・対話的で深い学びの研究と実践を進める。また、本校学力スタンダードの下に学習指導を組織的に行う。</p> <p>このため、授業改革学力スタンダード委員会を中心にして、生徒の進路希望を実現させるため目指すべき到達点を明確にするとともに、校内研修や教員相互の授業参観、入試問題研究、模擬試験分析を充実させ、学力調査の結果分析を生徒の学力定着に役立てるなどして学習指導の改善を図る。</p> <p>イ 本校学力スタンダードをもとに、すべての生徒の学力到達状況をもとに、取りこぼしのない丁寧なフォローアップ指導を行う。</p> <p>ウ 教科主任会、教科会を活性化し、教科指導を組織的に行って指導内容・方法の改善を図るとともに、入試問題研究の推進や模試結果分析などにより上位層生徒の成績伸張等に取り組む。</p> <p>エ 都立高最大規模の習熟度別授業を国数英化（の一部）で効果的に行う。教科会で、生徒情報共有、指導内容・方法等の改善、共通考査問題作成を綿密に行う。</p> <p>オ 予習、復習を習慣化させる。週末課題の提出や宿題、小テスト等の実施、学習支援クラウドサービスを活用した支援により自学自習時間（放課後の自習室での学習や家庭学習時間）の増加を図る。</p> <p>カ 4教科（保健体育、芸術、家庭、情報）の学習などを、健全な心身や豊かな心の育成、社会性やコミュニ</p>	<p>習室支援員の配置など組織的な運営を行えるようにした。</p> <p>ク 灘高校、洛南高校への視察を実施。外部研修会についてもオンラインなどを活用した研修を実施。</p> <p>ケ 同窓会の支援をうけて、キャリアガイダンスを実施した。東大、東工大、慶應義塾大、早稲田大などと連携し、訪問や模擬講義を実施した。</p> <p>コ 図書通信や学習支援クラウドサービスなどを活用して、読書意欲の喚起を行った。</p> <p>ア 授業改革学力スタンダード委員会の目標である教員授業相互参観を行った。来年度は目的を明確にするとともに、授業公開日や公開週間を細かく設定して教員全員の相互参観を実現できるように具体的計画立案を行う。</p> <p>イ 定期的な模試分析会や学期ごと数回、教科会を行い、生徒の学力到達度を分析した。分析結果をもとに、補習対象者を決定し、補習し、取りこぼしのないフォローアップ指導を行った。</p> <p>ウ 教科主任会では、来年度の新教育課程に向けての調整・整備を行うことが中心となり、指導内容・方法の改善等まで検討できなかった。観点別評価について、検討を行い、4年度からの実施に向けた計画の立案を行えた。進路部主催の模試分析会や予備校等主催の入試問題研究会の資料を教科会で共有した。</p> <p>エ 国数英化体で習熟度（少人数）授業を生徒のニーズや学力に合わせて調整を行った。教科会で、定期考査ごとの結果により適切にクラス編成を行った。</p> <p>オ 各教科で実施するとともに、担任においても各教科の課題提出状況を把握するなどし、提出状況により校長をふくめた面接指導を行った。</p> <p>カ 本年度は、芸術科目でもオンライン授業を行った。特に工芸において、教材や工具等の制約から、オンラ</p>
---	---

<p>ケーション能力の育成、知力・気力の源となる体力の向上等、幅広い人間形成のため重視する。</p> <p>キ 「アートプロジェクト新宿」（文化・芸術作品展示・発表等）を継続する。</p> <p>ク 「総合的な探究の時間」により教科「人間と社会」の充実、新宿御苑での活動をはじめとする多様な体験活動、課題研究、論文作成などで地域開発人材の育成を図り主体的で深い学びを推進する。</p> <p>ケ 理数研究校等の理系研究活動や英語教育推進校、文部科学省・地域協働推進校の活動を推進する。また、生徒の体力向上などにより東京 2020 競技大会のレガシー構築を目指す教育に取り組む。</p> <p>コ CYOD による、Teams などを活用したオンライン学習と対面型授業との意図的。計画的な学習指導の展開や家庭学習との融合を行うとともに、新型コロナウイルス感染拡大による教育活動の制限に即応できる授業体制を構築する。</p> <p>③ 生活指導（特別活動、部活動を含む）</p> <p>ア 自律的生活習慣の確立を図る。挨拶、時間厳守(含む遅刻防止)、身だしなみ(頭髪等)、清掃指導(含む所持品自己管理)、適切な部活動休養日など、都立学校生活指導指針等に基づく指導を徹底して、ルールを守り、マナーを身につけ、人の話を聴く態度を育成する。</p> <p>イ 特別活動（部活動・学校行事・H R 活動等）を充実させ主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。「文武両道」を旨として学習との両立を図り「集中と切り替え」を身につけさせる。</p>	<p>インで行うのは困難であった。体育では従来の新宿体操に加え、補強運動の SPE を全ての時間で実施し基礎的な体力の向上に努めた。</p> <p>キ コロナ禍で縮小を余儀なくされたが、可能な範囲で実施した。</p> <p>ク 令和 4 年度からの新しい探究学習「新宿学」の構築に向け、地元企業等と連携に向けた協議を開始した。</p> <p>ケ つくば市所在の各研究機関を訪問し、先端的科学研究に触れる機会をもった。科学の甲子園において実技競技において優勝した。</p> <p>コ 感染拡大時に対面型授業と Teams を活用した配信授業を同時に行うハイブリッド授業を即時に実施できるなど、授業に関するハードとソフトの両面の整備を十分に整えることができた。スマートスクール端末を活用する新しいタイプの授業体制の構築と家庭学習の効率化が課題である。</p> <p>ア 「挨拶の励行、時間厳守、遅刻防止、身だしなみを整える」＝教員の声かけ、ホームルームの指導により概ね目標達成。特に遅刻は年間を通して全体の 0.3%、1 日 1 学級当たり 0.30 人と過去最低を更新した。ただし、10 月 30 日時点では 1 日 1 学級当たり 0.18 人であったことを考えると、冬場の遅刻率の増加を抑えることが次の目標になる。</p> <p>「清掃」＝概ね行き届いたが、水分補給のために持ち込む水筒の放置が目立った。物を大切にできる精神の涵養が急務である。</p> <p>「部活動ルールの遵守」＝新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも徹底して行うことができた。概してルールを守ることは意識できているが、積極的に自他の生活改善に関与する姿勢が欲しいところで、次年度以降の課題である。</p> <p>イ 生徒が工夫を重ねた結果、すべての行事（運動会、戸山戦、球技大会、朝陽祭、合唱コンクール、マラソン大会）を行うことができた。規模の縮小、観覧の制限などがあったのは残念だが、緊急事態宣言や蔓延防止期間が常態化する中ではこれが精いっぱいのところ</p>
---	---

ウ 部活動ガイドラインに基づいた部活動と学級担任からの模試結果等の情報提供や部活動顧問による啓発指導等を相互連携して行い、部活動と学習の両立を図り部活動の仲間と学習でも競い合う。

エ 生徒・保護者・教職員による「チーム新宿」の具現化へ保護者会、希望保護者との面談(二者・三者)、部活動保護者会(合同・部活動毎)、PTA講演会、大学入試説明会などから保護者の理解と協力を仰ぐ。

④ 健康づくり等

ア スクール・カウンセラー(SC)、学校医、関連外部機関との連携を深め、教育相談連絡会や学校保健委員会、学校いじめ対策委員会等を組織的に実施し、カウンセリング活動や家庭と連携した指導、定期的調査等を行って、生徒の健康維持や心のケア、いじめ防止・対応、生命尊重の教育等を推進する。

⑤ 防災・広報活動・地域連携

ア 防災委員会を中心に防災課題の解決を図る。特に、宿泊防災訓練と新宿御苑への避難訓練を充実させる。また、地域の防災拠点としての役割を果たす。

イ 学校説明会(学習塾、自校作成問題等含む)などの募集対策活動を学校理解促進へ効果的に実施する。

ウ ホームページの内容を充実させる。保護者、都民への迅速で適切な情報発信を推進する。

⑥ 経営企画室、その他

ア 教育職員と連携した教育活動などとおして経営企画室の経営参画力向上を図る。予算編成、執行等ではセンター執行率を増加させるなど徹底したコスト管理を進める。

イ 生徒の安全・安心な学校生活の確保へ、施設・設備の警備・点検・整備を日々徹底する。

ウ 各分掌等で年度当初の目標設定と月毎の進捗報告によるPDCAを実施して組織力強化を図る。校内研修実施などにより体罰、セクハラ、個人情報等の服務事故を防止する。ライフワークバランス実現へ学校閉庁日の実施などの取組みを推進する。

であった。逆に、コロナ禍のもとでどのように行事を行えばよいか、生徒に主体的に考えさせるよききっかけとなり、主体性と協働の精神が向上したのは収穫であった。

ウ 部活動ガイドラインに基づく部活動は遵守できた。しかし学級担任との成績に関する連携は組織的に行うことが難しく、3年次の「目線合わせ」で活かせる程度であった。今後の課題とする。

エ (部活動保護者会について) コロナ禍にあつてクラブ合同保護者会を開催するどころか、保護者に来校いただくこと自体が難しい状況にあった。その中でもZoom、Classi、Teamsを用いた報告相談や連携を工夫した部も多くあった。

ア 校内での支援体制については各会を通じて安定的に運営できた。加えて、学校経営支援センター自立支援担当とも密に連携をとり、課題について関係機関からの協力を得ながら課題解決を図れた。

ア コロナ禍により、避難訓練については縮小して実施した。

イ コロナ禍の制限に応じながら、可能な限り計画的に実施できた。応募倍率についても推薦、一般ともに大きく上昇した。

ウ 学校における様々な活動を「今日の新宿」のコーナーで紹介し、HPについては222回の更新を行った。

ア 補正予算編成まで、センター執行率が高く、計画的に執行できた。その後、コロナ禍の緊急対応で学校執行に切り替える必要が多くあった。予算編成に当たっては、修学旅行の次年度への延期に伴い、旅費部分の編成など適切に対応できた。

イ 校地外周の整備に関し、関係機関と連携し整備開始の目途を立てることができた。

ウ 各会議における確認等で適切に対応できた。服務に関しては、全ての企画調整会議、職員会議でミニ研修を入れ、服務の厳正を期すことができた。

	【重点目標】	【数値目標】	【今年度結果】 () は昨年度
最重要目標	① 大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	6割以上	60.0% (65.2%)
	② 難関国立4大学合格者数	15名以上	16名(9) 〔東京2, 京都1, 一橋7, 東工4, 医大2〕
	③ 大学入学共通テスト5教科7科目受験者の総合得点率	80%以上得点率: 20% 75%以上得点率: 35%	80%以上 7.6% (15.2%) 75%以上 15.7% (41.1%)
	・国公立大等・ 早稲田慶応合格者数	国立大学等合格者数 計 100名以上 早稲田慶応合格者数 計 80名以上	国公立 93名 (105) 早慶 101名 (93)
	・自学自習時間	学年数プラス1~2時間	1年次 1.5時間 (1.32) 2年次 2.5時間 (3.0)
	・宿題提出率	学年統一課題: 概ね8割以上	1年次 90.0% (100%) 2年次 95.0% (84%, 96%)
	・大学入学共通テスト総得点全国平均比	全科目平均偏差値+5 (55以上)	14科目/16科目 (16/16) 達成
	・学力の定着向上①: 実力試験偏差値の全体平均及び 通減率 (最大母数の外部実力試験 2回(7月11日), 英数国総合)	1年次: 70以上 10%以上 60以上 70%以上 平均偏差値の通減率2%以内 (各科目もこれを目安とする)	70以上: 17.6% (11.1%) 60以上: 77.6% (89.9%) 1年次: 65.8→64.5: 1.3% ↓ 通減率2.0% (65.1→66.0: 0.9% ↑)
		2年次: 70以上 10%以上 60以上 50%以上 50未満 5%以下 平均偏差値の通減率2%以内 (各科目もこれを目安とする)	70以上: 9.6% (11.1%) 60以上: 65.8% (63.8%) 50未満: 1.9% (2.9%) 2年次: 63.3→62.4: 0.9% ↓ 通減率1.4% (60.4→62.4: 2.0% ↑ 2.0%)
	・学力の向上②: 実力試験偏差値の平均偏差値 (難関大向け外部実力試験(1 月))	1年次: 平均偏差値(英数国型)55以上 (各科目もこれを目安とする)	58.0 (58.4)
		2年次: 平均偏差値(英数国総)53以上 (各科目もこれを目安とする)	文: 55.4 理: 53.6 (文: 54.5 理: 53.3)
	・生徒の学習指導への満足度	概ね80~85%以上	88.1% (80.2%)
	・生徒の学習への課題意識と意欲	概ね80%以上	84.8% (75.1%)
	・年間生徒個別面談数 ・年間希望保護者面談数 ・年間補習・講習・個別指導時間 (教員一人当たり30時間、2講座開講 を目安とする) 【修正】	・生徒個別面談: 3回 ・保護者面談: 1回 ・補習・講習・個別指導: 1700時間以上	・生徒個人面談: 3回 ・希望保護者面談: 1回 ・講習: 1800時間以上
	・年間遅刻回数の減少率	1日1学級1人未満 (定期考査ごとに検証)	1日1学級0.31人 (0.45人) (目標を55%下回る)
	・部活動加入率	概ね90%以上を目安	93.1% (93.0%)
	・保護者の本校への満足度	教育方針95%以上学習・進路80%以上	方針88%, 学習89%, 進路89% (方針81.0%, 学78.5%, 進80.2%)
	・入試応募倍率	〔推薦〕昨年度並みの倍率 〔一般〕2倍以上	〔推薦〕6.53倍 (4.59) 〔一般〕2.34倍 (1.92)
	・ホームページ更新回数	85回	226回 (92回)
	・自律経営推進予算・第3四半期 一般需要費執行率	80%	81% (80%)